

新春日部

発行
日本共産党
春日部市委員会
春日部市粕壁東
6丁目7-12
電話 748-5159
FAX 748-5179

第20回 かすかべ平和フェスティバル開催

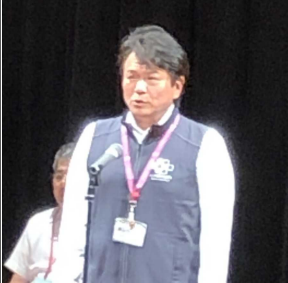
「つなげよう平和のバトン」巡回展示中

「戦争はイヤだ、平和でなくちゃ」第20回かすかべ平和フェスティバルが7月24日からの庄和総合支所の巡回展示を皮切りに開催されています。

8月2日、粕壁市民センターでは開会式と松元ヒロさんによる「憲法くんがやってくる・ひとりの舞台」の公演、2階ギャラリーでの展示がおこなわれました。今年も実行委員会と春日部市の共催で、司会や春日部市非核平和都市宣言の朗



庄和総合支所での展示



初の巡回展示

市内3か所をつなぐ

被爆80年の今年は『つなげよう平和のバトン』として、高校生のアンケート、埼玉大学所蔵のウクライナの子どもの絵などの巡回展示を初めておこないました。展示日程は、
・庄和総合支所 7月24日～8月6日まで
・粕壁市民センター 8月4日～8日まで
・市本庁舎2階 8月18日～26日まで
今年の高校生のアン

読を、共栄大学や松実学園の皆さんが参加しました。

ケート回答結果からは「春日部市非核平和都市宣言を知らない」が425名中416名という残念な結果でしたが、アンケートを通じて戦争や平和について今の社会とつなげて考え、個人の関心や行動が平和の一步になることを再確認した貴重な機会になったことがわかります。

また、平和を題材にしたウクライナの子どもの絵は、終息の見えない戦争のはざまに生きる気持ちや故郷への思いが描かれ、添えられている俳句が平和を求める率直な言葉で胸に迫りました。

開会式では実行委員長から「世界では平和と程遠い現実があり、子どもたちへの被害は遠い国の問題ではない。アンケートでは若い世代が課題に向き合う真摯な意見が見られ、大きな希望です」とあいさつがありました。

岩谷市長は「多くの市民の

皆さんと世界の恒久平和を願いたい」と述べました。式には副市長も参加しました。

「私は私を皆さんに託しました」

「政府の悪口を言うのでテレビに出れない」と笑いを取る松元ヒロさんは、2016年に絵本『憲法くん』を出版。

公演では、参院選での日本人ファーストという言葉のおかしさや、鹿児島テレビ「いのちのとりで」の生活保護と憲法25条、ジェイソン・ヒッケル著「資本主義の次に来る世界」紹介で、富裕層との格差が三百倍になる中で少ない方が豊かだ、など一時間半にわたって講堂が笑いと同意の拍手につつまれました。

最後に『憲法くん』として憲法前文を朗読し、「憲法が生まれた時のことを想像して下さい。私は私を皆さんに託しました」と結びました。

8月17日はしんぶん赤旗日曜版が合併号のため「新春日部」も休刊します



中高生の居場所

「武里ユースセンター」を開設

7月29日、令和7年度第

1回こども・子育て支援審議会がおこなわれ、中高生の居場所として7月24日から8月24日まで武里市民センターで開設されている「武里ユースセンター」について、活発な意見交換が行われました。

自分らしく過ごせる

「第三の居場所」

「こども・子育て支援審議会」は昨年4月に設置された審議会で、こどもと子育て支援に関する計画の推進について審議しています。小中学校の校長、保護者、PTA、幼稚園、子育て支援関係者などとともに大学生が委員になっているのが

特徴です。

この日は「こども・若者計画」で「中高生の居場所」の設置を位置づけたことから、実証実験として夏休み限定で実施されることになった「武里ユースセンター」について報告されました。

「武里ユースセンター」

は学校でも家庭でもない「第三の居場所」で、仲間と交流したり、「やってみたい」ことに挑戦したり、自由に自分らしい時間を過ごせる場所です。共栄大学のボランティアスタッフが常駐し、雑談したり、勉強を支援したり、やってみたいことを支援したりしています。また、映画鑑賞、ゲームなどのイベントも予

定しています。

「武里ユースセンター」

7月24日から8月24日

11時～17時(休所日あり)

土日は14時～20時

予約・申し込みは不要

市では今回の実証実験をもとに課題を明らかにし、今後の「中高生の居場所」についての検討を進めるということです。

小学生・外国籍の子

にも対応を

審議会委員からは以下のような質問、意見が出されました。

●勉強は教えてくれるか

↓共栄大学の学生が常駐しているの、勉強も含めて様々な相談ができる

●小学生は入れるか

↓兄弟で一緒に来た場合はいいが、基本的には市民センターでおこなってい

る小学生の居場所に誘導する

●小学生の居場所は、部屋だけあればいいということではない。こどもの興味を引き出すようなことをおとなが仕組むことが必要。

●地域ごとに子どもが選べる場所があるといい。遊びたい子もいるし、読書などしたい子もいる。いろいろな過ごし方ができるといい。

●外国籍の子どもたちの居場所にもなれるのか

●外国籍の家庭への支援が必要。こどもの方が日本語にも社会にも早くなじめるようだが、保護者はなかなかなじめない。こどもが通訳している家庭も多いようだ。こどもも保護者も支援を必要としている。対応を検討してほしい。

休日の当番医

市立医療センター TEL735-1261(夜間毎日、土・日・祝日)内・外科系 小児救急電話相談 #7119
8/10(日)かすかべ生協診療所(内科系)谷原2-4-12TEL752-6143 浜崎医院グレース家庭医療クリニック(小児科系)大倉610-10TEL718-0107 分娩館医院(外科系)備後西5-4-28TEL739-3883
8/17(日)南部厚生病院(内科系)大場20-1TEL736-7511 おかだこどもの森クリニック(小児科系)藤塚1225TEL745-7722 さだまつ眼科クリニック(外科系)谷原新田2213-1TEL731-5040